

昭和25年4月15日



第28號

足立区政ニュース

THE ADACHI KUSEI NEWS

發行所 五ノ住一丁目千代田区足立
 編集長 山雅二
 編輯 大野
 事務課 文書係
 浅草 4 4 0
 足立 3 1 1
 電 3 1 1 5



足立の名所と櫻

江北の櫻は世界的に有名で明治四十五年東京市から北米合衆國政府に櫻苗を寄贈するに當りこの堤に植栽されたる品種から接穂した十一種約三千本をワシントン市に贈りその後ニューヨーク市にも移植した又大正七年から十年に至る間青島季村民政署へ櫻苗千四百本を送つた然し今は江北堤上の櫻は見るかげもなくなつてしまつた

寫眞は中川堤の櫻である

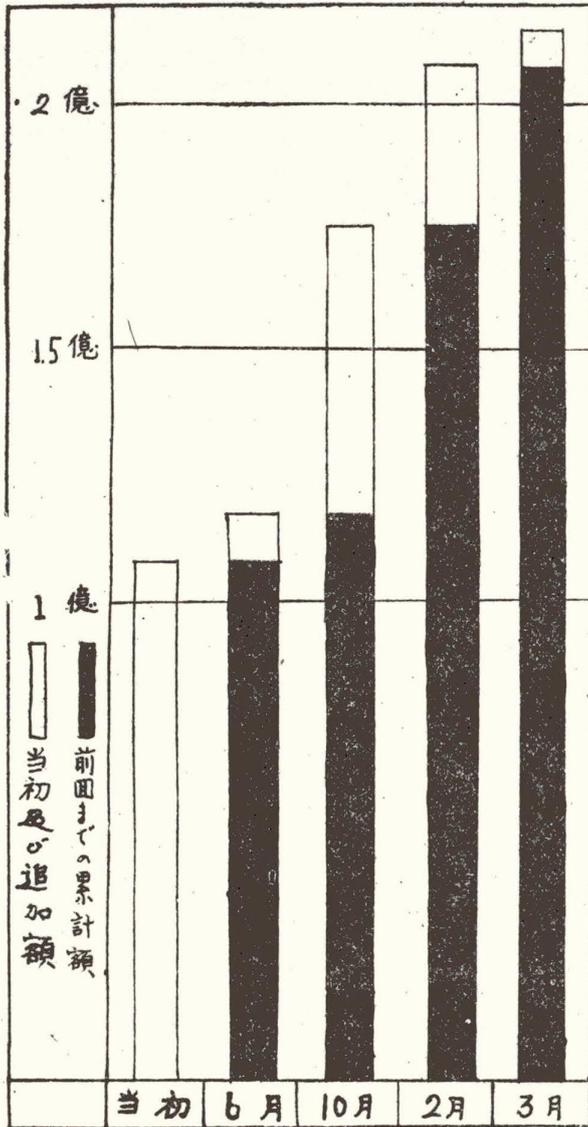
昭和24年度足立区歳入歳出追加豫算

昭和二十四年度最終の

区經濟追加豫算成立

歳 入			歳 出		
科 目	前回までの額 前 算 額	追加予算額	科 目	前回までの額 前 算 額	追加予算額
區 税	136,528,791	366,140	區役所費	74,725,837	250,000
			教 育 費	103,055,816	4,173,936
歳入合計	208,187,667	4,819,236	保 業 費	1,502,361	104,550
			護 費 業 費	1,976,768	290,750
			歳出合計	208,187,667	4,819,236
			昭和二十五年八月一日		

昭和24年區經濟予算追加補正概要



經濟九原則の大方針のもと、どんな経過を辿つたか其の概に強力な經濟安定の一途を辿ることを示すと、今回の追加を加つた昭和二十四年度も常に均えた豫算總額は貳億壹千參百餘萬圓である、年度當初は壹億八百七拾九萬圓餘であつた、巨り追加補正が行われたが、三月二十八日本年第二回區議會で成立した今回の追加豫算四百八拾壹萬圓餘で終止符を打つた。

いまこの豫算全体をどうして、

虚弱兒童に福音

上總湊に区立養護学園設置

本區では、區立小學校兒童中、虚弱兒童を對象として、養護学園を設置するべく、豫定から、懸案中であつたが、愈々これが、下記の通り實現することになった、既に、土地

東 京 から 約 三 時 間、房 總 西 線、上 總 湊 驛 から、徒 歩 二 分 の 地

東 京 から 約 三 時 間、房 總 西 線、上 總 湊 驛 から、徒 歩 二 分 の 地

詳細については教育課學事係

一、所在地 千葉縣君津郡湊町七七三番地 (電、湊、七六)

二、名稱 東京都足立區立上總湊養護学園

三、規模 敷地坪數一、四七四坪

四、收容兒童豫定數 棟延六七坪

五、開園豫定期日 昭和二十五年八月一日

園舎坪數 (イ)木造スレート葺二階建五七、二五坪 (ロ)附屬平家建五棟延六七坪

稅務職員の立場から

もう二、三週間ばかり前の他による世論に對しては、手ことになりす。ある夕刊紙に稅務官吏の横暴を難詰した投書がのつていました。それを承諾も得ず、無理矢理に差押をしてつたと云うのです。その時の國稅廳の答辯は、一應、稅務官吏の立場を説明してました。しかしその投書家に對して確固たる態度ではなく、多分に迎合的、とまはかないまでも、そんな匂いがしていたように考えられます。

稅務官吏への不滿、攻撃は今更決して珍らしいことではありませぬ。不親切であるとか、怠慢であるとか、と云うのです。かりに、一つ例を取つてみれば「税金を納めたのに、督促状が来た、稅務官吏は一体何をしているんだ」と云うようなことではありませんが、この場合、窓口であるならば、直接にわれわれの立場も説明し、稅の内容も納得させ、理解も求めることも出来ませぬ。たとえ、このような悪い世評のために、稅務官吏は親切であるとの先入観を持つて来たとしても（このような人は勿論一部ではありません）、一應納得させざることはわれわれの責任であり、義務でもあります。しかし新聞その

て、御丁寧に督促状を發しているものでも決してないのです。もちろん、稅務官吏への批判は悪いことではありません。しかし、理解を求めようとはせず、攻撃のための攻撃ではとりまおさず、これは頑固と云うことになりす。

納稅者は、稅と云うものの本質をよく理解せられ、税金は他人のために納めるのではなく、自分自身の文化や生活が向上すると云う、云わば自分自身のために納めるのだと（筆者）足立區役所稅務課職員

「お互の生活改善に」

生活協同組合大會

足立區及び足立區生活協同組合本區内の生活協同組合は、合事業協議會主催の足立區生活協同組合大會が、三月二十六日、關原小學校で盛大に開催された。

この日、雨天にも拘らず、会場に詰めかけた區民は、日本協同組合同盟中央委員川崎すみゑ女史の「現在の深刻な經濟狀勢下の苦しい生活を、消費者大衆の協力によつて打開してゆかねばならない、毎日の新聞を賑わわせている悲惨な出來事は協同の力で守ることが出来る」と言う克明な統計實際にわたる解説に、生活協同組合に對する認識を新たにした。

四月十二日櫻模様に綺麗に飾られた花見列車「足立號」は七輛編成の客車に、美しく着飾つた、區内婦人會員約四百五十名を乗せて、午前七時十四分、北千住驛を發車した。寄居驛を通過した頃から、車窓には、満開の白い櫻が、清冽な溪流に一ひら、二ひら散つて行く景色が展開された。櫻を見ない中から、お花見気分浸り切つていた車中は、花をみても一層賑かさを増して、この日、長瀬觀光協會の好意による、足立區民歡迎大會に臨むため、豫定の長瀬驛下車を變更して、十時三十分上長瀬驛につく、地元觀光協會の輦に迎へられて、会場につくと、赤い秩父銘仙を着た十數名の踊子が囃子に合せて、秩父音頭を踊つている、秩父自然科學博物館から長瀬に延びる櫻並木を背に、なだらかな傾斜の芝生から、木の間にぐれに、溪流の白く岩に碎けるのが見られる廣場で、造化の天工の快心の繪畫に酔い切つた一行は晝食を機に解散、絶好の花見日和に霞む勝景の地に、都座を洗い落した、解散後自然科學博物館無料入場券がめい／＼に渡され、顔面まで、密毛に蔽われたピラカントロップス人、クローマニオン人等の想像圖や、秩父山中で發見された、貝類の化石鯨の骨などをみて、この邊は、昔は海であつたんだと、酒仙の境にある考古學者の破天荒な説明を、連れの老婆が感心して聞いている光景に、入場した人々は、博物館の中にも春を感じて微笑する。

花見列車

足立號同乗記

河原を散歩しながら、足立區連合婦人協議會副會長遠藤まつよ氏は、花見列車の感想を次のように語つた。

婦人會としても、日常家庭の仕事に忙殺されて、仲々外出の時間をもてない會員が、一日の団体で清遊することは、相互の親睦、認識を深める意味で非常に意義深いことと思ひ、度々計畫をたててみたが、連絡、經費等のことで仲々實行出来なかつたけれど、區がこれを主催してくれたので喜んで、汽車の混雑や、地理に暗いために外出できぬ婦人のために、今後も區の方で、指導的計畫をたててくれ

